



立川総合病院消化器センター  
外科主任医長  
日本ヘルニア学会評議員  
蛭川 浩史

鼠径ヘルニアについて

今回は、鼠径部（そけいぶ）から内蔵がとびだしてしまう、鼠径ヘルニア、いわゆる脱腸の話です。

鼠径部とは、お腹の一番下で足との境目の部位です。ここは、男性では精索という睾丸に向かう血管などが通り、女性では子宮円索という子宮を固定している靭帯が通る部位で、おなかの筋肉に隙間があり、弱い部分です。ここから内臓が飛び出してしまうのが鼠径ヘルニアです。いくつかわ弱い部分があり、飛び出す部位により名称が変わります（図1）。

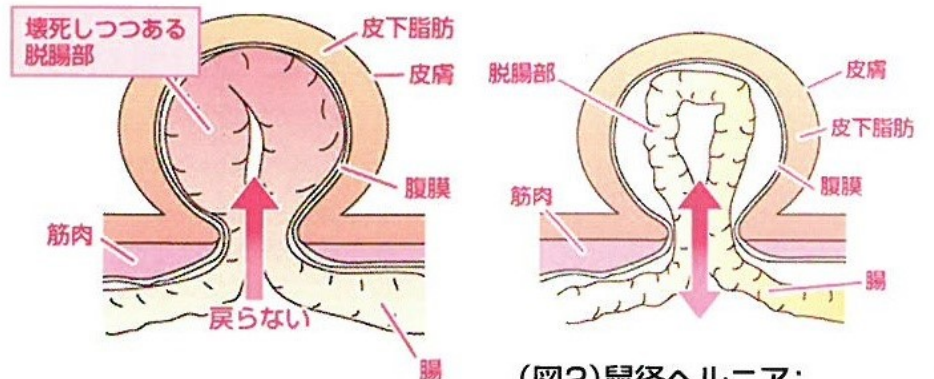
(図1)ふくらむ部位によるヘルニアの違い



ヘルニアは大人と子供で原因が違います。子供では、この部位に生まれつき袋が残っていることが原因で、学童期に多く発症します。大人では、立ち仕事が多い方、便秘でよくいきむ方、常に咳をしている方など、慢性的に力がかかると、その圧に耐えられなくなり、内臓がとびだしてしまうことが原因で、60から70代の方に多く見られます。元々弱い部分からの脱出なの

で、筋トレで腹筋を鍛えても予防効果はありません。何歳までが子供のヘルニアで、何歳からが大人のヘルニアなのかは、わかっていません。大人のヘルニアでも、子供の原因が残っていることがあります。

特徴的な症状は、この部分が膨らむことです(図2)。立っていると膨らみ、寝ると腹圧がかからなくなるので引っ込みます。徐々に痛みや違和感が出ます。だんだん膨らみが大きくなると、自然には戻らなくなってきました。こうなると、飛び出した内蔵が締め付けられ血液の流れが悪くなり、激しい痛みを伴うようになります。これは嵌頓(カントン)といい、ヘルニアの症状で最も重症で、緊急処置が必要です(図3)。臓器の血流が悪くなるので、最悪の場合、臓器が腐ってしまいます。そうになると、たかがヘルニアでも命の危険が出てきます。



(図3)嵌頓したヘルニア

(図2)鼠径ヘルニア：腸がはまり込んだ状態

ヘルニアは、自然に治ることはないため、だんだん大きくなります。あまり大きくなると、手術も大変になり、術後の合併症や再発率も高くなります。

鼠径部に、悩ましい膨らみができてしまった場合には、まず一度、外科医の診察を受けてみて下さいね。